

水産海洋地域研究集会

第 48 回北洋研究シンポジウム  
－北日本の定置網を取り巻く諸問題：その解決に向けて－

日 時：2018 年 8 月 31 日（金）10:00－17:00

場 所：函館市弁天町 20 番 5 号 函館市国際水産・海洋総合研究センター

主 催：一般社団法人水産海洋学会

協 賛：一般社団法人日本定置漁業協会

コンビナー：山村織生（北大院水）・桜井泰憲（函館頭足類研）・後藤友明（岩手大農）

挨拶：大関芳沖（一般社団法人水産海洋学会会長）

10:00-10:10

趣旨説明：山村織生（北大院水）

10:10-10:20

座長：高津哲也（北大院水）

1. 定置網における暖水系魚類の漁獲状況

10:20-10:50

藤岡 崇・三橋正基（道総研函館水試）

2. さけますの漁獲動向

10:50-11:20

宮腰靖之（道総研さけます内水試）

3. 近年の北日本沿岸域における海況

黒田 寛（水研機構北水研）

11:20-11:50

昼休み

11:50-13:00

座長：笠井亮秀（北大院水）

4. 道南海域におけるクロマグロの大量入網機構とその対策

13:00-13:30

桜井泰憲（函館頭足類研）

5. 定置網におけるクロマグロ小型魚混獲回避の可能性

13:30-14:00

後藤友明（岩手大農）

6. 定置網漁獲物の鮮度保持に関する実証研究

14:00-14:30

吉岡武也（道工業技セ）

休 憩

14:30-14:45

座長：山村織生（北大院水）

7. 大謀網へのネズミイルカの混獲について

14:45-15:15

松石 隆（北大院水）

8. 定置網漁業とトド：被害対策と生体捕獲の試み

15:15-15:45

服部 薫（水研機構北水研）

9. えりも地域サケ定置網におけるゼニガタアザラシによる漁業被害と対策手法

15:45-16:15

藤森康澄（北大院水）・蔵本洋介（北大院水・環境省）

休 憩

16:15-16:20

座長：後藤友明（岩手大農）

10. 総合討論 定置網漁業の持続性のために

16:20-17:00

**開催趣旨：**我が国の沿岸漁業を代表する定置網漁業は、受動的な「待ち」の漁業であり、曳網類等の能動的漁具にくらべて環境負荷が低いと考えられてきた。しかし、その受動性ゆえに海況の影響を受けやすく、また入網する生物の選択性が低いため、各地で非意図的な漁獲や混獲による問題が起こっている。さらに、北日本沿岸域では近年「寒冬暑夏」の傾向が強まると共に、道東沖暖水渦の強化、大型低気圧の頻発など沿岸漁業にとって厳しい環境が続いている。北海道の定置網漁業の主力であるサケの漁獲量が昨年 25 年ぶりに 10 万トンを下回った一方、暖水性種であるブリは近年 1 万トン程度の漁獲が続いている。このように北日本の定置網を取り巻く状況が変化する中で、従来とは異なる操業や流通の形態が求められつつある。本シンポジウムでは、各地で生じている問題点を紹介するとともに、先進的な対策も紹介し、問題の軽減・解決への糸口としたい。